

質問30分 質問・答弁60分

一般質問通告書

通告番号

入間市議会議長 様

8番

松本義明

平成26年8月20日

質問事項	質問要旨	答弁を求める者
福祉行政	ファミリー・サポート・センター事業	福祉部長 〃 市長
	1. 事業の要となるアドバイザーの現状	
	2. 今後の事業の方向性	
図書館行政	3. 来春には事業充実に向けた第一歩を	生涯学習部長
	人・資料・施設を充実させた図書館づくり	
	1. 図書館基本計画に基づく取組み状況	
	2. 人・資料・施設を充実させた図書館	
	(1) 人の充実	
	・図書館司書の専門性	
	・運営ボランティアの組織	
	(2) 資料の充実	
	・資料の寄贈	

質 問 事 項	質 問 要 旨	答 弁 を 求 め る 者
広報広聴行政	・ 電子図書	企画部長
	(3) 施設の充実	
	・ キッズスペースの確保	
	・ 交流スペースの確保	
	SNS (ソーシャル・ネットワーキング・	
	サービス) を活用した広報広聴	
	1. 現在までの SNS の活用状況	
	2. SNS を活用した更なる可能性	

一般質問要旨

平成 26 年 8 月 20 日

松本義明

「ファミリー・サポート・センター事業」

1. 事業の要となるアドバイザーの現状（福祉部長）

ファミリー・サポート・センター事業を開始して 10 年が経ち、発足時に比べ、利用会員数、提供会員数は毎年増え続けている。それに伴い援助件数も伸び続けており、今後も一層の需要の増加が見込まれている。ファミリー・サポート・センター事業への需要の増加に伴い利用会員と提供会員をコーディネートするアドバイザーの役割は増している。現在のファミリー・サポート・センター事業におけるアドバイザーの役割とはどのようなものであり、アドバイザーの現状はどのようなものか。

2. 今後の事業の方向性（福祉部長）

子供・子育てに関するニーズが多様化しており、ファミリー・サポート・センター事業への期待もますます高まっている。今後、障害児や病児、病後児など対象を広げていくこと、利用会員数、提供会員数増やしていくこと、講習時間の確保するなどにより事業を充実させていく必要がある。今後のファミリー・サポート・センター事業の方向性についてどのように考えているのか。

3. 来春には事業充実に向けた第一歩を（市長）

子ども・子育て支援新制度が来春からスタートするので、ファミリー・サポート・センター事業も来春から充実させるべきと考える。近年、困難ケースへの対応や利用回数の増加などにより現在のアドバイザー 2 名体制では十分なサービスを提供することが困難であると伺っている。そのうえ今後のファミリー・サポート・センター事業の拡大に向けた取り組み等を考えればさらに業務が増してくることから事業の要となるアドバイザーの増員が必要であると考える。子ども・子育て支援の充実のためにも、ファミリー・サポート・センター事業の充実に向けた計画策定と必要な予算措置を来春に向けて行うべきと考えるがご見解はどのようなものか。

一般質問要旨

平成 26 年 8 月 20 日

松本義明

「人・資料・施設を充実させた図書館づくり」 (生涯学習部長)

1. 図書館基本計画に基づく取組み状況

情報社会の進展、ライフスタイルの多様化など社会の変化に伴い、市民の図書館運営についてのニーズも変化している。市長公約により昨年度から図書館の開館時間の延長が行われてきた。そして 10 月から本格的に実施していく方針である。しかし、開館時間の延長だけでは図書館に関する市民のニーズに十分応えられない。図書館にはどの時代でも変わらずに求められる普遍的な役割と時代の変化とともに求められる新たな役割がある。本市では、「入間市立図書館統計調査」、「図書館開館時間延長等に関する市民アンケート」、図書館協議会の意見、利用者の声、日々の業務などから市民ニーズの把握に努めている。図書館に関する市民のニーズに応えるべく、本市の図書館が抱える課題や目指すべき図書館の在り方を示したのが「入間市図書館基本計画」である。「入間市図書館基本計画」に基づく取組みのうち、その主なものと取り組む状況はどうなっているのか。

2. 人・資料・施設を充実させた図書館

これからの図書館は資料の貸出だけでなく、多くの市民が利用してみたいと思えるような空間や居場所にならなければならない。そのためには図書館の機能を高めていく必要がある。これからの図書館の在り方として「人・資料・施設」の順で充実していく必要があると考える。以下すぐに取り組むべきものを提案する。

(1) 人の充実

はじめに「人」の充実については、図書館を運営するのは人であり、市民ニーズを基に現場からの提案や様々な工夫が求められる。今以上に地域との関わりをもちながら図書館においても生活課題や行政課題を共有していき課題解決につながる様な図書館が求められる。その為には「人」の充実がもっとも重要である。

・図書館司書の専門性

図書館における専門職である司書の方がレファレンスサービスにおいて専門性を発揮できるようにしなければならない。そのためには窓口業務の効率化に向けてセルフサービス化や業務一部の委託化などを検討して司書の方がより専門性を発揮しやすい環境整備をする必要がある。

・運営ボランティアの組織

図書館運営においてもボランティアを組織していく必要がある。そのためには地域に出向き、ボランティアを募り、活動を支援していくなどボランティアコーディネーターとしての役割が求められる。

(2) 資料の充実

次に「資料」の充実については、図書館がその役割を十分に果たすには、なんといっても資料の充実が必要である。

・資料の寄贈

限られた図書購入予算ではあるが、市民の関心が高い分野の図書の整備に向けて市民から読まなくなった本を積極的に受け入れることや、企業協賛をさらに募るなどの工夫が必要ではないか。

・電子図書

時代の変化とともに求められる新たな役割として電子図書がある。これまで利用してこなかった世代を取り込むためにも電子図書の導入に向けて検討すべきではないか。

(3) 施設の充実

最後に「施設」の充実については、図書館に行きたくなるような空間にする必要がある。これまでの図書館は、静かに読書や勉強をする場所であったが、これからはより多くの市民にとっての居場所となるようにしなければならないと考える。

・キッズスペースの確保

子どもが小さいうちから本に親しめるようにするために、また子どもを連れた大人が図書館を利用しやすいようにするためにキッズスペースをさらに確保すべきではないか。

・交流スペースの確保

飲み物を飲みながら本を読めるような場所や、グループ学習ができるようにするなど市民交流につながるような交流スペースを作るべきではないか。

一般質問要旨

平成 26 年 8 月 20 日

松本義明

「SNS を活用した広報広聴」 (企画部長)

1. 現在までの SNS の活用状況

本市では今年 4 月から市公式 Facebook を導入しており SNS を活用した広報広聴が開始した。導入から半年が経つが、その利用状況はどのようなものか。また閲覧数や市民の反応はどのようなものか。

2. SNS を活用した更なる可能性

今後の市公式 Facebook の機能を最大限活用してどのような広報広聴が可能なのか。(防災・防犯に関する情報提供に関する事、情報の双方向性に向けた取り組みなど) SNS の特徴である情報の拡散性や双方向性についての取り組みを始めることで市政運営における課題解決に活かしていけるのではないか。